

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900499		
法人名	株式会社 グランユニライフケアサービス		
事業所名	グランメゾン輪舞館京都羽束師 1階		
所在地	京都府京都市伏見区羽束師菱川町628-5		
自己評価作成日	令和5年1月24日	評価結果市町村受理日	令和5年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染者発生などある一年ではありましたが、職員一同の力や医療関係者の協力もあり、ご家族様の理解もあつたことで、難局を越えることができました。来年度にむけ面会だけでなく、その他の規制緩和に努めています。現状を踏まえて新しい生活様式ととらえた1年であり、周りの協力も得られたことが、ご利用者様や職員が安心・安全に生活できたと考えております。今後さらなるサービスの質の向上に努めたいです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiryouCd=2690900499-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiryouCd=2690900499-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和5年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には住宅や工場、また少し離れて小中学校も見える閑静な場所に当事業所があります。コロナ禍で、今までおこなっていた外出や地域交流などは見合わせています。昨年の夏には利用者の新型コロナへの感染があり、以後生活の不活発化の改善のために、従来からの訪問マッサージや生活リハビリなどの強化に取り組み、状況改善を図っておられます。面会にも柔軟に対応し、面会のついでに家族と利用者が近隣を散歩する姿も見られます。毎月全家族に本人の写真と職員手書きの便りを送り、様子が分かると好評です。また、時々行事食やリクエスト食でお好み焼きやベビーカステラなどを作り楽しんでいます。居室の入口には、花をあしらった職員手作りの名札がかかり、リビングの壁にも利用者で作った季節の作品が並び、優しいメッセージとなっています。また、24時間体制で医療支援をしてくれるクリニックや訪問看護ステーションとの連携により、家庭的な雰囲気の中で、今年度も2名の看取りをされています。職員からは、働きやすさへのバックアップもあり安心と聞き取りました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念(当社全施設共通) ・自分らしく心豊かな生活・プロのサービス・共存共栄の理念をもとに、当施設だけでなく同社グループ施設の協力体制により質の高いサービスを提供している。	法人の共通理念及び三つの運営方針①ご本人の意思ご家族の想いを尊重し質の高いサービスを提供する②プロとしての自覚と誇りを持ち、知識・技術・人間力の向上に向けて努力する③法令を遵守した健全な経営を行い、従業員の生活基盤確立と充実を図ることなどを定め、玄関を入った事務所の横に貼り出している。朝礼で毎朝理念を唱和し、全職員への浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設もそうですが、近隣でも積極的なつながりが実施できず、地域との繋がりが希薄しているのが現状。	町内会に入り、便りとして情報を届けてもらっていたが、この所目立った活動はなく、便りも入っていない。たまに事業所の問い合わせに来られる方がいる。近くの小学校に通うお孫さんの運動会を個人的に見に行かれた方はあるが、表立った交流はない。学区の地図にAED設置場所として事業所が登録されており、地域の方にも活用してもらえるよう、目立つ場所に置いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じく、地域貢献の面では貢献出来ていない。問合せや相談に関しては積極的に助言などを継続して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	集合開催が施設として困難な状況が続いていますが、情報発信は継続してしておりますので、春頃に集合開催を目指しております。	運営推進会議は書面開催でこない、民生委員や自治会副会長、久我の杜地域包括支援センターなどの関係者には事前に資料を配布して意見を募り、家族には電話で意見聴取をしているが、意見は少なく、事業所からの報告が主である。事業所の利用状況、ヒヤリハット、事故報告、レクリエーションの様子、面会やコロナワクチン接種状況など一部写真付きで詳しく報告し、議事録は全家族に配布している。	5月からは対面での運営推進会議を再開する予定とのことですが、双方向で発展的な会議運営となることを期待します。また、本人や家族にも会議への参加を呼びかけられては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会をオンラインにて継続的に開催されていますので施設内にて情報共有しております。	2か月に1度、伏見区介護サービス事業者連絡会にオンライン参加をしている。コロナ陽性者発生の際には保健所とメールや電話で連絡を取り合い、指示をもらい、PCRや抗原検査キットの受け取りに出向き、検体を市に提出するなどして関わりを持った。事故報告の届け出や運営推進会議議事録も市に持参している。	

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修により理解してサービス提供を行っている。言葉の拘束(話し方)については、各ユニットに例文を貼り出し随時確認できるようにし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を定め、2か月ごとの運営推進会議の後に外部委員を交えて身体拘束の適正化委員会を開催している。現在は運営推進会議が書面開催であるため、事業所内開催としている。拘束事例はないが、グレーゾーンとして、センサーマットなどを検証し、サービス担当者会議でも家族を交えて話し合っている。クラスター発生時には居室対応を余儀なくされた利用者の心身機能が低下し、口数も減り、職員間で解決策を話し合った。「帰らなあかん」とソワソワされる方には対話や散歩で気分転換を図っている。	身体拘束や虐待防止は正職員、非正規職員を問わず重要な課題です。2か月ごとの委員会記録と正職員の年2回の研修レポートはありますが、正職員以外の研修履歴が明確ではありません。全職員が研修内容を周知したことが分かるような記録が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて知識・技術や法令を理解し業務を実施。開けた居住環境をいかし防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員により知識の差はありますが、オンラインの研修を活用して理解を深めています。(全施設統一研修内容にて)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時の説明を行うとともに、それまでに話し合いの場をもち理解・納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染者が発生した時以外は、面会など直接あってお話しいただける環境を整備しているので意見も反映しやすく随時、対応・実施している。	本人の意見は普段から聞き取り、申し送りノートなどに書きとめて共有している。食べ物の要望が多い。家族からは面会方法や、タブレット通話への要望などがあり、可能な限り応えている。編み物が好きだったので本人にさせてほしいという要望や、必要なものや好物の差し入れなどもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて意見を集約するとともに提案を実行に移せる相談や計画作成の場としている。それ以外のときも随時提案できるように努めている。	普段から管理者やリーダーが話しやすい環境を作り、できることは極力実現している。トイレの施錠について、閉じこもりのリスクとプライバシー侵害の観点から議論し、現在は外している。花や野菜のプランター栽培の提案などは会議で、資格取得の希望、勤務シフトの相談、プライベートな話などは管理者との人事考課面談で話せている。離職率は法人内では低い方で、職員からも、上司がよく話を聞いてくれて働きやすいと聞き取った。	

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、職員個々の業績を平等に評価し、その際に個々の勤務・プライベートなこともヒアリングから向上心をもって働ける場になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を活用するように後押しする勤務体制などの拝領を行い各自の能力に合わせて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問しやすい環境になりつつあり、関係が途切れないように努めている。今後関わりをもてる人数を増やし、(イベントや合同研修会等)を以前のように開催出来るように努める。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ることや、やりたい事等のプラスからヒアリングし困っている・不安に対し出来る事からしていただくように話を進め安心していただける信頼関係作りに作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望などをヒアリングするが本人様と思いのすり合わせを行い双方が安心して頂ける関係づくりに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちを尊重し外部の資源も活用し、安心・安全に生活できる出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の尊厳を尊重しながらも共存共栄の気持ちで介護に入るように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心・安全に生活するために家族の協力も得て共に支える関係を築くために、いつでも会える環境を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を継続するのは困難であり希薄になりがちではあるが、家族にも協力頂き、維持出来るように努めている。	家族の面会はあるが、友人の来訪はない。貼り絵、歌番組視聴、プリンターでの園芸、習字、編み物、体操など従来からの生活の継続を支援している。新聞を自ら購読されている方や、事業所の新聞を読まれる方もいる。法事や葬儀、墓参のための外出をされる方もある。定期的な訪問理美容では、カット以外に染髪やパーマも可能であるが、現在は希望者はおられない。顔そりの後に化粧をしてもらい、以前の習慣を思い出される方もある。職員が毎月手書きの手紙に写真を添えて家族に送り、様子をしらせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアー(食堂)を常に居心地のいい場所にするため、個々の性格や生活リズムを把握し職員と共に支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、随時、相談に応じ提案なども行ってその後の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難なことが多いですが、できるかぎり本人の意向に添えるように、言葉だけでなく行動からも意向をよみとり検討している。	本人の思いは日頃の支援の中で聞き取り、食事レクリエーションなどに反映させている。また、合同のレクリエーションでは本人の気持ちを尊重し、無理強いすることのない様になっている。コミュニケーションがとりにくい方はしぐさから判断している。電話をしたい方にはその支援をしている。アセスメントは3か月ごとに実施して介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や担当ケアマネなどから話しの聞き取りを行い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないことを日々の生活の中から把握し、できる事から実施して頂き有する能力を生かして頂いている。		

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、介護記録の内容をもとに実施状態や本人に即した内容の中を見直し3か月ごとに修正を行い本人に即した内容にしている。	サービス担当者会議には医師や介護スタッフなどが参加している。医師に同行する看護師や薬剤師は他の業務に携わり、会議に参加することはほとんどない。家族からは電話や面会時などに意見聴取し、センサーマットなどについても一緒に検討している。3か月ごとにモニタリングをして、介護計画を作成している。急な変化があれば、3か月以内であっても計画を変更している。	個々の介護記録に介護計画を印字し、日々実践成果を記録する様にしていますが、記録が乏しく、活用されていません。また、三大介護(入浴・食事・排泄)以外の記録がほとんどなく、利用者の様子や心理面への考察、介護の質が見えてきません。簡潔且つポイントを外さない記録の取り方への工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で共有しやすいように、一人ひとりファイリングし、補足事項については申し送りノートを活用し情報共有を行い見直し・検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設のサービス形態をフルに活用し柔軟に対応しサービスの質の向上と受診対応等おこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用として訪問マッサージや訪問歯科・訪問看護を利用し安全な暮らしをトータルでサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望を基本にかかりつけ医の受診・往診を行っている。	月に2回クリニックの医師の訪問診療があり、看護師や薬剤師の同行がある。24時間体制で医療上のフォローがあり、ほとんどの利用者が同クリニックに主治医を変更している。急な他科受診には事業所が付き添い、定期の他科受診には家族や、場合により事業所が付き添う。歯科医と別の日に歯科衛生士が来所し、口腔衛生指導に当たる。訪問マッサージ師が週5回入り、利用者の必要に応じて施術をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護を月2回使用し、状態に即した受診・往診・看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との関係を日々良好に保つよう努め、入院が発生しても良好な連携体制で早期の退院に努めている。		

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも確認しかかりつけ医・往診医にも話し合いに随時参加してもらい、常に最適なケアを実施している。	「重度化した場合における対応に係る指針」や「看取りに関する指針」をもとに、職員は年1回看取り研修をしている。家族の要望と諸条件が合えば、医師、介護職などが協働して24時間体制で看取りケアをおこなう。終末期には医師の指示で医療保険の訪問看護を随時利用できる。コロナ禍でも看取り期は家族の出入りは自由で、今年度は2名の利用者が家族と最期の時を過ごせた。看取り予定であったが急遽病院搬送となった方もおられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを各ユニットに貼り出しいつでも確認のできるようにし、看取り研修と合わせて緊急時の対応についても周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を行い、知識・技術を身に付け特に水害地域でもあるので、警報などの情報には注力している。	1回目は水害と消防訓練、2回目は夜間想定消防訓練を実施している。浸水想定区域であり、水害訓練時は事業所2階に垂直避難をしている。火災訓練では、通報後、1階はベランダから外へ、2階は非常階段を使って利用者とともに避難をしている。2階の車椅子の方はベランダで救助を待つ対応を取っている。参加者は訓練後に反省や課題を出し合っている。ご飯、お粥、ビスケット、水など5日分の備蓄が法人から届いている。地震避難訓練はしていない。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重し、敬語を基本に本人を敬いプライバシーを損なわないようにしている。	接遇研修は法人作成の資料を用いて管理者がおこない、研修後はレポートの提出を課している。また、身体拘束・虐待の研修では、ストレス自己チェックリストで振り返り、倫理の研修からも利用者の尊厳やプライバシーについて学んでいる。声かけに敬語を使うことで荒い言葉を予防する効果も狙っている。トイレや入浴の支援には一定の距離をおいてかかわり、プライバシーに配慮している。職員の気になる言動があった場合は、管理者があとで事情を聞き、指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が出来ることには積極的にして頂き、主に生活の中の家事などには出来る限り参加していただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を尊重し、今までの生活と変わりの無いように、支援を行っている。		

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽東師 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は本人が選び、困難な方はこちらで、出来る限りおしゃれに出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて、提案し実施して頂く。出来る方には日課として日々の生活に取り入れていただく。	献立は法人のフード部が立て、使用する食材は事業所で中央市場や他の業者に発注し、調理は職員がしている。15日はカレーライスの日と決め、日付を思い起こす手立てにしている。利用者は職員とともにテーブル拭きや食器洗い、お盆拭きなどを行っている。リクエストがあった時は、お好み焼きやラーメン、クリスマスにはシチューやチャーハン、正月は黒豆や出し巻、なますや筑前煮などの行事食、誕生日には本人の好物を提供している。おやつレクリエーションではぜんざいやスイートポテトなどを作り、誕生日にはデコレーションケーキで祝う。色々な陶器、家から持参した馴染みの箸や湯呑、マグカップで食の楽しみを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医・往診医にも相談しながら、日々の摂取量を確保できるように、表を使い管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施し、細部に至っては訪問歯科にも協力をしてもらい、清潔保持と肺炎リスクを下げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を表にして排泄リズムのパターンを読み取り、トイレへの誘導の声掛けを実施し出来る限り自立した排泄を支援している。	排泄記録を表にして、利用者の排泄パターンを一目でわかるようにし、本人の様子を見ながら声をかけ、トイレに誘導している。排泄表を使った適時の支援で汚染が減ってきている。また、3時間おきを目安に、入浴前や食事前などにも声をかけている。車いす使用の方もできるだけトイレで排泄ができるように移乗を介助している。排泄のパターンが一定しない利用者には、本人が安心するように、夜間はポータブルトイレを居室に置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、排泄に良いヨーグルトや動ける方に歩行をして体を動かし自然排便に努めている。		

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けのタイミングや、希望に添えるように声掛けをして拒否なくこちらの都合を優先しないように努めている。	利用者は週2回、1日に4~5人が午前中に入浴している。入浴後は全員保湿剤を塗布している。湯温は利用者により調整し、湯の入れ替えは自動循環で清潔に保たれている。浴槽はゆったりした個浴であるが、見守りの方は減り、支援が必要な方が増え、2人介助の方もおられる。シャンプーなどは好みの物が使える。入浴中は利用者と職員が1対1でたわいのない会話を楽しみ、ゆったりとした時間を過ごしている。入浴を嫌がったが、トイレに誘導した流れで近くの浴室に誘導し、すんなり入れるようになった方がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に影響の出ない範囲を見極めご自身のペースにあわせて休息して頂き自由を損なわないように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と薬剤師と連携をとり状態に合わせて随時対応し健康管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活的な日課に重きをおき活動的に毎日を過ごせるように家事には率先して実施していただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は感染する脅威がある為、実施できていないが、町内を散歩して季節を感じたり外の空気を感じて頂けるように支援している。	コロナ禍のため、外出は控えているが、家族による通院送迎や町内の散歩は続け、季節を感じたり、外気浴を楽しんでいる。また、面会時には近くの公園まで家族と散歩に行っている。5月以降には様子を見ながら外出の計画を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では実際に使う場を提供できていないが、以前は買物に出かけたりして、お金を所持したり買う喜びを得て頂いていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時対応しており、手紙や電話の内容を職員に楽しそうに話される方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のフローア(食堂)については、居心地の良い場になっており、居室で過ごすよりフローアで過ごす方が多く集まって来る。生活感を出すようにフローアに物を配置している。	居室よりもみんなが集うリビングで過ごすことを好まれる方が多い。座席は決めてあるが、ソファも含めどこで過ごしてもよいようになっている。体操や口腔体操や季節の作品作りを皆でしている。脳トレゲームや、新聞を読んだりテレビを見たりして、それぞれの時間を楽しんでいる。集まりやすい場所にしたいとの職員の思いで、あえてテーブルなどに日常使う物を置き、キッチンの台にそれぞれのマグカップを並べ、自宅の居間のような生活感のある空間づくりをしている。壁にカレンダーや時計、春を感じる桜の花に雛人形を貼った色紙を飾り、誕生月別に利用者の顔写真を貼っている。窓を開けての換気や、空気清浄機、加湿器を置き、職員による清掃と消毒で衛生管理に務めている。利用者もできる方は簡易モップで掃除をしている。事業所の窓は年2回業者が清掃している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの席は決まっているがどこで過ごしても良いようにしており、本人の気分によって思い思いの場所や人と過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に関しては危険なもの以外は本人や家族に任せており使い慣れたものを持参される方も多い。	入所時に職員がその人のイメージに合わせて、色紙に名前と花の切り絵などをあしらひ、表札代わりにしている。部屋のレイアウトや持ち込むものは家族と決め、管理者は動線確保ができるように、タンスの高さや配置のアドバイスをしている。カレンダーや写真、地域との交流で小学生からもらった手紙、時計、テレビ、テーブル、椅子、ソファなど好みの物を置いている。床にカーペットを敷いている人やベッドの昇降場所にすべり止めマットを敷いたり、ベッドにクッションを置いている方もいる。ベッドや常夜灯、空調機、クローゼット、カーテンは備え付けてある。清掃や消毒は職員が主におこない、家族が持ってきた手軽な掃除用具で自ら掃除をされる方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりにくならないように、表札やトイレなどの表示をして本人が自由に行動し自立出来るように努めている。		